

2018年度 海洋教育パイオニアスクールプログラム

成果報告書1：海洋教育のデザイン

1. 逗子開成中学校・高等学校

2. 活動テーマ 「海洋人間学 : 学内における海洋教育の基盤形成」

3. 実践の概要・ねらい

本校の海洋教育をさらに展開させるために、海洋教育カリキュラムの基盤を固めること、および海洋教育の統括部署を設置し機能させることに力点をおいた実践を行なう。前者については、中学の学年行事（中1スピーチ大会、中2のディベート大会、中3の文化祭学年発表）を海洋と結びつけて活動を展開する。また、後者については、学校の校務分掌において海洋教育委員会・海洋学担当部署を設置し、本校における海洋教育の取り組みと生徒の学びをまとめ、校内外に情報発信を行なうこととした。今年度は特に『逗子開成中学校・高等学校 海洋教育報告書』を冊子として編集・発行した。教職員、生徒・保護者はもとより近隣の教育機関や行政機関にも配布して、海洋を共有する人たちとのつながりを広げていく

4. 実践計画

①テーマ・概要・活動計画、教科等との関連について

中学2年 ディベート大会について

テーマ : ディベート大会テーマ「日本はペットボトル税を導入すべきである。是か非か。」

概要 : 海流に乗り海洋や海岸を埋め尽くすプラスチックごみが問題となっている。この海洋ごみは海洋の生態系に大きな影響を与え、ひいては人間への影響も懸念されている。こうした背景を踏まえ、ディベート大会の論題について班ごとに情報収集を行ない、ごみ問題に関して多角的な見方にもとづき理解を深めていく。

活動計画: 11月下旬 - ディベートに関するガイダンス

12月～1月下旬 - ディベート大会論題に関する調べ学習など準備

2月～3月中旬 - ディベート班別対抗戦・クラス代表戦

関連教科: 総合学習・国語・理科・社会

中学3年 開成祭（文化祭）での学年発表について

テーマ : 逗子の海から海洋を考える

概要 : 中学3年では、開成祭において様々なテーマについての学年展示発表を行なうが、そのなかで「海洋研究」に取り組むグループを組織し発表する。生徒が経験してきた本学のヨット帆走や遠泳など海洋教育をふりかえる一方で、海に関する社会科学的な問題や人文科学的な問題、自然科学的な問題について理解を深めていく。海洋研究班は以下の6つの小グループからなる。

①「海洋教育」グループ

②「海の技術」グループ

- ③「海と国際関係」グループ ④「未知なる海」グループ
⑤「逗子の海」グループ ⑥「海の生き物」グループ

活動計画： 7月－グループ決定、研究テーマの設定、メンバーによる計画立て、話し合い
9月－調査研究レポートの提出、
9月～10月－調査研究レポートの検討・整理、インタビュー実施、作品制作、
Power Point 資料の作成、発表準備

関連教科： 総合学習・国語・社会・理科

教員による海洋教育統括部の整備と情報発信について

テーマ： 「海洋教育委員会海洋学担当」部署の設置と「海洋教育報告書」の編集・発行
概要： 従来、本校のヨット帆走実習や遠泳実習を運営してきた海洋教育委員会の規模を拡大し、2つの部署に分けて、「海洋実習担当」部署と「海洋学担当」部署を設置する。前者がこれまでの実習の運営を中心に行なう。後者は、新たに管理職、広報部、各教科担当の教員から構成され、実習を通じた生徒の学びの分析や教科教育との連関にもとづく海洋教育プログラムの企画を行なうとともに、本校の海洋教育を学内外に情報発信していく。今年度の「海洋学担当」部署では、個々の海洋教育活動の成果報告や研究者・専門家による本校海洋教育活動への寄稿論文等を冊子のかたちで編集し発行する。この冊子をもとに、教職員および生徒保護者や地域の人々との間に海を共有する。

活動計画： 4月－海洋教育委員会海洋学担当発足。年度方針会議
5月～6月－海洋教育報告書の作成会議
9月～12月－本年度の海洋教育関係の実習レポート分析
12月～1月－海洋教育報告書の原稿作成・編集作業
2月－海洋教育報告書の原稿校正作業

②実践の評価について

中2・中3の行事に関しては、生徒個人が取り組みの振り返りを行なう（自己評価）。海洋に関する生徒のアプローチの仕方や生徒の理解の実状については、各学年の総合学習系の教員を通じて総合学習委員長が総括し、海洋教育委員会海洋学担当に報告する。次年度の中2・中3の取り組みに向けて検討する。

本校の海洋教育に関する情報発信については、海洋教育委員会海洋学担当部が発行する「海洋教育報告書」を教職員、生徒保護者、地域の教育機関・行政機関等に配布したうえで、先方の意見や要望等を受け入れながら、検討していく。

5. 今年度の実践

①計画からの追加・変更点

中1においては「海」をテーマにスピーチ大会を行なう構想があったが、スピーチ大会そのものがビブリオバトル大会（「書評合戦」）と変更されたため、中1行事を海洋と関係づける計画は断念した。その他、大きな追加・変更はない。

②実践の成果

中学2年のディベート大会については、12月より、本校の図書館の一角に「プラスチックごみを調べる」と題した蔵書コーナーを設け、図書館での生徒の調べ学習への動機づけを行なった。図書館司書の協力で、4種類の「情報カード」（図書用・新聞雑誌用・インターネット用・その他用）の書き方・使い方を指導してもらい、情報の集約・整理に活用させた。主に2月からクラス内での班別ディベート対抗戦を行なった。3月のクラス代表戦まで含めて振り返ると、議論のなかで、地球の広範囲における海洋プラスチックごみの現状、海洋プラスチックごみの総量、海鳥・海亀・魚類・アザラシなどの海洋ほ乳類における被害の実状をうったえる班が多かったが、どちらかという海洋の問題よりもペットボトルのリサイクルの有効性や税にかわるディポジット制の有効性に関する議論に、ディベートの力点が置かれていた感がある。

中学3年の開成祭（文化祭）の取り組みについては、中学3年生278名のうちの64名が海洋研究班に属して研究発表に取組んだ。上記の「4. 実施計画」にある通り、6つのカテゴリーに分かれて班別に研究を行なった。例えば、「海の生き物」班では絶滅した大型海洋生物の研究発表を行なった。「逗子の海」班では逗子湾の利用について漁港の側面やマリンスポーツの側面から研究発表を行なった。「未知なる海」班では、“地球外の海を探す”と称して「海洋惑星」の研究発表を行なった。

中学2年・中学3年のこうした取り組みは、ヨット帆走実習や遠泳実習といった海を体感する機会とは別の観点から逗子の海を捉えることで、逗子の海の存在論的な学びにつながっていくと思われる。

教員による海洋教育統括部の整備と情報発信については、年度当初の海洋教育委員会において、今年度の方針と各部署の役割について確認を行なった。海洋実習担当班では、昨年度のヨット帆走実習の反省をもとに、実施学年のスタッフとの連携の仕方について再検討がなされた。海洋学担当班では、教員における海への意識・関心を高めるための方策が検討され、その一つである「海洋教育報告書」の編集方針を確定した。それによれば、①本校の海洋教育のすべてを網羅する、②海洋教育の各プログラムを紹介する学校広報的な性格ではなく、実際の生徒の学びの実態を分析的に紹介する報告書の作成をめざす、③東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター特任研究員の加藤大貴氏に本校の海洋教育に関するエッセイ原稿を依頼する、ことなどが決定された。その後、海洋学担当員の間で役割分担を定め、データ分析や編集作業などを行なった。報告書の各項目は以下の通りに定まった。

「逗子開成中学校・高等学校 海洋教育報告書」

（巻頭） 「はじめに」 逗子開成中学校・高等学校の海洋教育

1. 本校の海洋教育の歩み
2. 本校の海洋教育カリキュラム
- 3 - 1. 「ヨット製作・帆走・講義」の取り組み
- 3 - 2. 「ヨット帆走実習」における中学生の学び
- 4 - 1. 「遠泳（水泳）」の取り組み
- 4 - 2. 「遠泳（水泳）」における中学生の学び
5. 中学3年生の「開成祭」の取り組み
- 6 - 1. 「海洋学特別講義」の取り組み
- 6 - 2. 「海洋学特別講義」における中学生の学び
7. 「海洋人間学講座」の取り組みと高校生の学び

8. 「海洋自主研究グループ」の取り組み
9. 海洋教育における教員の取り組み
(特別寄稿) 「海洋人間学講座」からみる逗子開成の海洋教育
10. 本校の海洋教育における展望

校正作業は2月上旬から中旬にかけて行なった。冊子の製本は、計画当初は近隣の印刷所に委託する予定でいたが、デジタル原稿をそのまま製本する通販印刷業者に依頼すると費用が格安となり、同予算で大幅に増刷できるため、通販業者に委託することとなった。そのため、校正作業にかなりの時間を費やした。

③次年度への課題

本学における海洋教育の統括部署の整備したうえで、本額の海洋教育に関する外部への情報発信を着実にこなっていくことが肝要であると自覚している。情報発信と同時にそれに対する反応・評価についても積極的に受容していく。その過程のなかで、本学と、逗子の海を共有する本学の周辺地域との関わりを深められるようになっていくことが望ましいとも考えている。

中学の学年行事における海洋学習の導入については、当該学年スタッフとの綿密な打ち合わせのなかで内容・方法を吟味していくべきであるが、上記にあげた本学の海洋教育の方針と他教科との関連も含めて、学年行事との関連をこれまで以上に明確に打ち出す必要があると思われる。

6. 主な連携機関及び内容

東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センターとの連携

→海洋学特別講義・海洋人間学講座の企画・運営に関する支援をいただいている。

ヨット帆走実習・遠泳実習の教育効果分析に関するアドバイスをいただいている。

本校の海洋教育カリキュラムに関するアドバイスをいただいている。

中学2年 ディベートの取り組み～論題「日本はペットボトル税を導入すべきである。是か非か」

【実践のねらい】

海流に乗り海洋や海岸を埋め尽くすプラスチックごみが問題となっている。この海洋ごみは海洋の生態系に大きな影響を与え、人間への影響も懸念されている。こうした背景を踏まえ、ディベート大会について班ごとに情報収集を行ない、ごみ問題に関して多角的な見方にもとづき理解を深めるとともに、思考力(論理的思考力・批判的思考力・瞬発的思考力)を高める。

○時数 11月～3月 20時間 (総合的な学習の時間)

○関連 国語科・理科・社会科

○目標 (1)論題にある「ペットボトル税」というキーワードから海洋汚染の問題に結びつけ、海洋汚染とプラスチックごみの関係を課題として捉えることができる。

(2)プラスチックごみによる海洋汚染問題の解決に対して現実的なアプローチ・提示をすることができる。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
体験的な活動											<ul style="list-style-type: none"> ・ディベート班別対抗戦 ・クラス代表戦 	
探究的な活動											<ul style="list-style-type: none"> ディベートガイダンス ・ディベート大会論題に関する調べ学習など ・資料準備 	
表現活動												